

## 入選

### コロナが教えてくれたこと

香川県 桜町中学校

一年 高見 祐衣

新型コロナウイルスの緊急事態宣言による休校期間を経て、二度目の夏休みを迎えた。小学5年生だった私は中学1年生になった。暑い時期のマスク生活も、この夏で最後になったらいいなあ、そんな風にも思う。以前、お姉ちゃんの高校受験が終わったら、旅行しようねと母が言っていたが、その夢もかなわなかった。

休校が決まったとき、私は小学5年生だった。学校に行って友だちと勉強したりおしゃべりしたりすることは、それまであたりまえのことだったのに、あたりまえでなくなってしまった。さみしい、つまらないと思いながらも、だらだらと一日を過ごし、1ヶ月を過ごしているうちに、休校は終わった。

6年生の夏休みもそんな感じだった。今年は中学に入って、少し大きくもなったからか、こんなに長い間家の中にいるのだから、一日中外で働いている母のために、一日家の中にいる自分ができることをしたい、難しいことにも挑戦してみたいと思うようになった。

掃除や洗濯物をたたむのは、ときどき手伝っているので、夜ご飯を作ってみることにした。母をびっくりさせたかったので、内緒で、買い出しから調理まで全部一人でした。ハンバーグ、チキンソテー、カレーライス。いろいろ作ることができた。

初めてハンバーグを作った日は、仕事から帰った母がとても感動していて、私もとても嬉しかった。

「いつもよりおいしい。スパイスにはなにを入れたの？」

と聞かれたので、隠し味にコンソメを入れた話をしたら、また感動してくれた。食後の洗い物もいっしょに手伝うと、そのあとみんなでゆっくりする時間が増えて、私のおしゃべりもたくさん聞いてもらえた。

「お料理って、結構疲れるんだね。ママはすごいって思ったよ。お仕事もして帰ってきて、家族のためにご飯も作って。これを毎日してるんだね。」

そう話したら、母はにっこり笑って、

「ママは自分ができるから、しているだけだよ。でも、もしこれから体調が悪かったり、帰りが遅くなることがあったら、ゆいちゃんがみんなのためにハンバーグ作れるね。姉ちゃんにも教えてあげてね。」

と言った。ほめてもらえて、とても嬉しかった。

コロナによって、あたりまえのことがあたりまえでなくなった。いろんなことに規制がかかり、しんどいことも増えた。だけど、コロナは家族との時間を増やし、会話も増やすことにつながった。お料理をしたり、家の手伝いをするので、私にもできるのだと思えて、少しだけれど、自分に自信を持つことができた。

これからも、家族や周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに、自分ができることを、自分でしっかり行っていきたいと思う。